

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 31 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24530614

研究課題名(和文) 広狭域に及ぶ人的移動と地域交渉を介した地方社会の複合的形成に関する研究

研究課題名(英文) The Formation of a Local Society through the Mobility of People and Social Negotiations among Communities in Large and Small Areas

研究代表者

福田 恵 (Fukuda, Satoshi)

広島大学・総合科学研究科・准教授

研究者番号：50454468

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、兵庫県北部但馬地方の数自治会及び関連組織を定点事例としつつ、各種のネットワーク(林業者、同郷者、医療者などの関係網)の空間範囲、時代的変遷および社会特性を実証的に検討した結果、地方社会が、定住だけではなく、広狭域における人的移動と地域交渉を介したいくつもの地域の複合化によって形成されてきたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study examined spatial ranges, changes and social features of social networks (forest workers, medical workers and fellow provincials) in the cases of communities and social organizations in the northern area of Hyogo Prefecture (Tajima). In conclusion, a local society was formed by the mobility of people and social negotiations among communities in large and small areas.

研究分野：農村社会学

キーワード：但馬 広狭域 地方社会 人的移動 地域交渉 関係網

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、三つの学術的潮流の中に位置している。第一に、「ローカル・コミュニティ」「地方社会」の意義を問い直す研究系譜、第二に、自然災害や生老病死に関わる危機やリスクを契機として生成する社会的共同性や持続的関係性に着目する諸研究、第三に、従来の地域研究、村落研究の方法論的限界を超えようとする知的潮流である。

### 2. 研究の目的

(1)本研究の目的は、日本の地方社会が、定住者やコミュニティ組織にくわえ、遠隔地からの人的移動や地域交渉に支えられたプロセスを実証的に解明し、その学術的意義を明示する点にある。

(2)具体的には、兵庫県北部但馬地方の数自治会及び関連組織を定点事例としつつ、それぞれの地域事情に即して、各種のネットワーク(林業者、同郷者、医療者などの関係網)を広狭域に派生させたプロセスの解明に力点を置いた。

### 3. 研究の方法

本研究の方法については、林業組織、親族・同郷組織、医療組織を中心テーマに据え、それぞれに狭域調査地(定点となる自治会、関連機関。以下、定点調査地)と、広域調査地(狭域調査地と関連する但馬圏域内および圏域外の地域・組織)を設定した。調査は、おおむね「事前調査」(1-2日程度)「本調査」(4-5日程度)「追加調査」(2-3日程度)の段階で深めていった。調査データの整理については、テーマごとに広狭域に渡るネットワークの情報を各責任者が集約し、重複する地域データは、代表者が情報の照合、統合的な整理を統括した。論点の明確化のため、地方社会におけるネットワークの派生プロセスおよび諸地域の「複合」化のプロセスについて、調査結果と先行研究との共通点、相違点を検討した。

### 4. 研究成果

(1)本研究のベースとなる成果は、テーマごとの調査によって蓄積された。林業については2013年度、医療については2012-13年度、親族同郷組織については2014-15年度に中心的成果が得られた。また、2014年度には林業に関わる定点調査地の一つで、すべてのテーマに関わる資料の所蔵と利用許可を得た。以下、各テーマの調査展開(2~4)と定点調査地の拡充(5)付随的に得た調査結果(6)、共同研究全体としての成果(7)および公表した成果(8)について、順に記述する。

(2)林業および森林資源利用については、2012年度に北但馬の定点調査地(香美町、日高町諸集落)の情報に基づき、南但馬の林業経験者や集落拠点を調査し、八鹿町青山区と日高町稲葉区のつながり等を把握した。2013年度には、定点調査地と関わりの深い、富山県利賀村出身者の調査を行い、作業時の写真や日誌、契約書類等の資料の提供(撮影許可)を受けた。2014年度には、狭域調査地(村岡町山田区)と広域調査地(富山)の情報から、山田区近隣の区において、三重県からの林業者の聞き取り調査を行うとともに、香住区において、小城区出身者から同集落の歴史的変遷と山田区との関係について情報を得た。また、富山県利賀村(広域調査地)の資料のナンバリングと翻刻を行った。2015年度には、資料整理と学会報告を行った。

(3)医療については、2012年度に公立八鹿病院等の医療機関で調査を実施した。八鹿病院総長へのインタビューを通して、独自の地域医療の方針によって一時期から南但馬最大の病院となり、地域の重要な存立基盤となっていたことが明らかとなった。医療従事者の地域間移動と地域内の再生産の状況を実証的に確認するために、2013年度には、当院

の看護学校において、看護学校の学生（1 学年～3 学年）を対象とした調査票調査およびインタビュー調査を実施した。2014-15 年度には、調査データの整理と関連する狭域の地域・機関において補足調査を実施した。

（4）親族・同郷組織については、2012 年度に定点調査地等において、八鹿の一小学校の同窓会に関する資料とネットワークについて情報を得るとともに、丹後の同郷組織に関する情報を得た。2013 年度には、看護学校の調査において、親族関連の質問を組み込み、20 代前後の若者の都市農村経験や親族ネットワークに関する質的情報を得た。2014-15 年度において、定点調査地（豊岡市日高町稲葉区）の情報から、京阪神一帯に広がる但馬出身者の飲食業のネットワークがあることが明らかとなり、その追加調査（インタビュー、資料収集）を実施した。

（5）当初、林業関係の定点調査地であった豊岡市日高町稲葉区において、2014 年度調査において、区所蔵資料と区長所蔵資料および T 家所蔵資料等の所在・保存状況を確認し、目録作成の許可を得た。それに伴い、所蔵資料の撮影を開始し、関連するインタビュー調査も実施した。林業、医療、同郷組織に関連する資料があったことから、以後、当集落を重要拠点に定め、適宜、追加調査と資料整理を行った。

（6）以上の調査のプロセスで、研究テーマに付随する以下の情報を得た。但馬内外の多数の商人の出入りが南但馬（特に養父市八鹿町）の社会・経済を支えてきたこと、豊岡市一地区と、滋賀県長浜市の一地区が地域の由緒を契機として深い繋がりを保持したこと、三重県松阪市と但馬地方が芸能および畜産の上で独自の関係をとったこと、看護学校の調査から但馬の若者のネットワークの

一端が明らかになったこと、同郷組織や酒造出稼ぎの情報から京阪神との複数のネットワークが絡み合っていたこと等。これらの情報は断片的なものであったが、但馬地方の定住と移動を考察する際、重要な参照軸となった。

（7）林業、医療、親族同郷組織の三テーマごとに調査データをとりまとめ、各々のネットワークの空間範囲、時代的変遷および社会特性を検討した。その結果、林業の関係範囲が県内外の林業地に及ぶのに対して、医療と親族・同郷組織は但馬地方一帯および京阪神との関連が強かったこと、林業をはじめとした自然資源利用の関係網が拡大と衰退をする時期に、都市農村にまたがる親族・同郷組織の派生がみられるとともに、少子高齢化を前提とした医療組織の改編がすすんだこと、それぞれのネットワークが時間的空間的にずれていたことで、結果的に多地域の人びとがその関係の網の目に組み込まれ、但馬地方の社会的関係性や地域意識を支えてきたことなどが明らかとなった。

以上の結果から、地方社会の形成を、定住という視点からのみ描くのではなく、人的移動と地域交渉を介したいくつもの地域の複合化の視点から描出しうるようになった。この点は、定住と移動を連結した社会学的モノグラフの提示という点で、調査方法上の意義を有するとともに、今後の地方社会の再生成のプロセスに対しても示唆を含むものである。

5. 主な発表論文等  
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

- 〔雑誌論文〕(計 6 件)
1. 奥井亜紗子、「学歴主義の浸透と農村長男の都市移動 兵庫県篠山市同郷団体会員調査をもとに」『農業史研究』、査読有、2016、50、2-13 頁

2. 福田恵「書評 細谷昂著『家と村の社会学 東北水稲作地方の事例研究』御茶の水書房、2012年12月」『村落社会研究ジャーナル』、査読無、43、2015、57-58頁
3. 奥井亜紗子「米村千代『「家」を読む』『家族社会学研究』、査読無、27、2015、2頁
4. 福田恵「越境する山村研究の現在」『村落社会研究』（日本村落研究学会）査読無、第21巻第1号、2014、37-43頁
5. 福田恵「狩猟者に関する社会学的研究 イノシシ猟を介した社会関係に着目して」『共生社会システム研究』、査読有、7巻1号、2013、223-255頁
6. 田村周一、「高等教育とその質的転換に関する社会学理論的考察——パーソンズのシンボリックメディア論を中心に」『くらしき作陽大学作陽音楽短期大学研究紀要』査読無、46巻2号、2013、13-25頁

〔学会発表〕(計 9 件)

1. 福田恵、林業移動と人的関係網 山村像をめぐる社会学からのメッセージ、地理科学学会、2016年1月21日、広島大学
2. 福田恵、近代山村における林業移動と人的関係網 広狭域に及ぶ山村像の把握に向けて、日本村落研究学会、2015年11月8日、郡上市和良町民センター
3. 田村周一、外国人住民の「非集住地域」研究の可能性(4) 地方社会での医療・福祉にかかわる支援状況、日本社会学会、2015年9月20日、早稲田大学
4. 奥井亜紗子、学歴主義の浸透と農村-都市移動 兵庫県篠山市同郷団体会員調査をもとに」日本農業史学会、2015年3月27日、東京農工大学
5. Fukuda Satoshi, What is Land Tenure? : Prof. Kitahara's Significant Accomplishments, 5th Asian Rural Sociological Association, 2 Sep 2014, Vientiane, Laos
6. 福田恵、越境する山村研究の現在 解題、日本村落研究学会関東地区研究会、2014年3月31日、明治大学
7. 福田恵、近代日本における山村社会の移動とネットワーク 林業移動の事例から、長崎大学重点研究課題「東アジア共生プロジェクト(国際シンポジウム 移動と記憶の日中比較)」2013年2月22日、長崎大学
8. 福田恵、林野研究の展開と農村社会学の射程 戦前期日本における農村研究の再検討、日本社会学会、2012年11月4日、札幌学院大学
9. 田村周一、高等教育とその質的転換に関する社会学理論的考察—パーソンズの大学論を中心に—、日本社会学理論学会、2012年9月1日、立命館大学、京都府

〔図書〕(計 8 件)

1. 奥井亜紗子、福村出版、「篠山を担う 地域エリートの変遷」『成熟地方都市の形成 丹波篠山にみる「地域力」』、2015、28
2. 奥井亜紗子、福村出版、「多紀郷友会と会誌『郷友』『成熟地方都市の形成 丹波篠山にみる「地域力」』、2015、2
3. 福田恵、福村出版、「イノシシと篠山」『成熟地方都市の形成 丹波篠山にみる「地域力」』、2015、2
4. 福田恵、晃洋書房、「日本社会における地方的世界 山間部と旧町場からみた『但馬』」藤井勝、高井康弘、小林和美編著、『東アジア地方的世界の社会学』、2013、24
5. 福田恵、晃洋書房、「ラオス北部集落における農村都市関係の形成過程 親族網の派生と地縁の再創出」藤井勝、高井康弘、小林和美編著、『東アジア地方的世界の社会学』、2013、21
6. 奥井亜紗子、晃洋書房、「『地方的世界』における人口移動と市街地形成—旧豊岡市を事例に—」藤井勝、高井康弘、小林和美編著、『東アジア地方的世界の社会学』、2013、14

7. 田村周一、晃洋書房、「日本の地方的世界における医療—兵庫県但馬地方の医療史・医療再編・地域医療の実践から」藤井勝、高井康弘、小林和美編著、『東アジア地方的世界の社会学』、2013、16
8. 福田恵、朝倉書店、「農村の社会」千賀裕太郎編『農村計画学』、2012、4

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

福田 恵 (FUKUDA, Satoshi)  
広島大学・総合科学研究科・准教授  
研究者番号：50454468

### (2)研究分担者

奥井 亜紗子 (OKUI, Asako)  
京都女子大学・現代社会学部・講師  
研究者番号：50457032

田村 周一 (TAMURA, Syuichi)  
聖カタリナ大学・人間健康福祉学部・講師  
研究者番号：50467643